

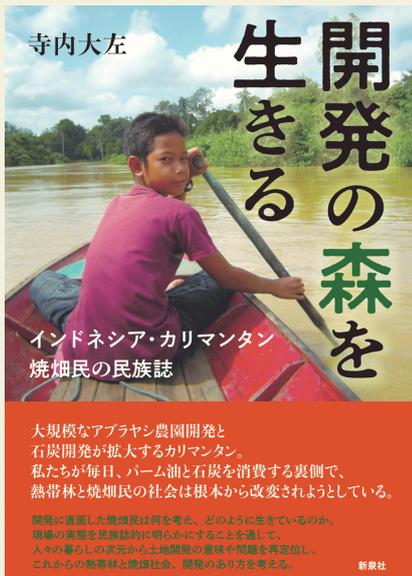
# 第27回

# 国際開発研究 大来賞

OKITA Memorial Prize for International Development Research

一般財団法人 国際開発機構 FASID

「国際開発研究 大来賞」は、多様化する国際開発のニーズに対応し新たな指針を提示する研究を奨励するため、当財団初代評議員会会長を務められた元外務大臣 大来佐武郎氏を記念して、1997年に創設されました。第27回(2023年度)の受賞作品が決定しましたのでご紹介します。



寺内 大左 著

『開発の森を生きる』

—インドネシア・カリマンタン 焼畑民の民族誌』

(新泉社) 2023年

## これまでの受賞作品

- 第1回 廣瀬昌平・若月利之編著 『西アフリカ・サバンナの生態環境の修復と農村の再生』農林統計協会 1997年
- 原 洋之介著 『開発経済論』岩波書店 1996年
- 第2回 絵所秀紀著 『開発の政治経済学』日本評論社 1997年
- 深川由起子著 『韓国・先進国経済論—成熟過程のミクロ分析—』日本経済新聞社 1997年
- 第3回 中兼和津次著 『中国経済発展論』有斐閣 1999年
- 辻村英之著 『南部アフリカの農村協同組合—構造調整政策下における役割と育成—』日本経済評論社 1999年
- 第4回 峯 陽一著 『現代アフリカと開発経済学 市場経済の荒波のなかで』日本評論社 1999年
- 第5回 黒崎 卓著 『開発のミクロ経済学』岩波書店 2001年
- 西川 潤著 『人間のための経済学—開発と貧困を考える』岩波書店 2001年
- 第6回 石井正子著 『女性が語るフィリピンのムスリム社会』明石書店 2002年
- 脇村孝平著 『飢饉・疫病・植民地統治—開発の中の英領インド』名古屋大学出版会 2002年
- 第7回 平野克己著 『図説アフリカ経済』日本評論社 2002年
- 第8回 石井菜穂子著 『長期経済発展の実証分析』日本経済新聞社 2003年
- 安原 毅著 『メキシコ経済の金融不安定性』新評論 2003年
- 第9回 藤田幸一著 『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動:貧困削減のための基礎研究』京都大学学術出版会 2005年
- 第10回 谷 正和著 『村の暮らしと砒素汚染—バングラデシュの農村から』九州大学出版会 2005年
- 第11回 湖中真哉著 『牧畜二重経済の人類学—ケニア・サンプルの民族誌的研究』世界思想社 2006年
- 第12回 牧田りえ著 『Livelihood Diversification and Landlessness in Rural Bangladesh』The University Press Limited 2007年
- 第13回 武内進一著 『現代アフリカの紛争と国家—ポストコロナル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』明石書店 2009年
- 第14回 田辺明生著 『カーストと平等性—インド社会の歴史人類学』東京大学出版会 2010年
- 第15回 該当作なし
- 第16回 佐藤百合著 『経済大国インドネシア—21世紀の成長条件』中央公論新社 2011年
- 第17回 森 壮也・山形辰史著 『障害と開発の実証分析—社会モデルの観点から』勁草書房 2013年
- 山尾 大著 『紛争と国家建設—戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』明石書店 2013年
- 第18回 柳澤 悠著 『現代インド経済—発展の淵源・軌跡・展望』名古屋大学出版会 2014年
- 第19回 古川光明著 『国際援助システムとアフリカ—ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える』日本評論社 2014年
- 第20回 宮城大蔵編著 『戦後日本のアジア外交』ミネルヴァ書房 2015年
- 第21回 田中由美子著 『「近代化」は女性の地位をどう変えたか—タンザニア農村のジェンダーと土地権をめぐる変遷』新評論 2016年
- 佐藤 仁著 『野蠻から生存の開発論—越境する援助のデザイン』ミネルヴァ書房 2016年
- 第22回 堀江未央著 『娘たちのいない村—コメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』京都大学学術出版会 2018年
- 第23回 友松夕香著 『サバンナのジェンダー—西アフリカ農村経済の民族誌』明石書店 2019年
- 第24回 谷口美代子著 『平和構築を支援する—ミンダナオ紛争と平和への道』名古屋大学出版会 2020年
- 第25回 下條尚志著 『国家の「余白」—メコンデルタ 生き残りの社会史』京都大学学術出版会 2021年
- 下村恭民著 『日本型開発協力の形成—政策史1・1980年代まで』シリーズ「日本の開発協力史を問います」1 東京大学出版会 2020年
- 第26回 工藤晴子著 『難民とセクシュアリティ—アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除』明石書店 2022年

## 審査委員選評

本書は、カリマンタンで進むアブラヤシ農園開発や石炭開発に対し、現場で開発問題に直面する焼畑民がどのように生きようとしているかを、現地の人々の「生計戦略・生計論理」の視点から考察した大作である。ブヌア人の村 (BS村) に1年2ヵ月滞在して実施した焼畑民との対話、家計調査、焼畑調査、自然資源利用調査、労働形態や贈与関係等の丹念な現地調査は、収集・分析されたデータの価値、および手法の学際性という点で高い学術性をもつ。研究者の観察の緻密さ、そして気迫に圧倒された。

グローバル化が進み、多国籍企業が国境を超えて途上国で経済活動を行うことが当然となった今、影響をうける現地の人々の土地、環境、人権の保護など、倫理性ある企業行動はビジネスの鉄則になっている。また「持続可能な開発目標 (SDGs)」の時代において、若い起業家たちがNGOと連携して途上国・地域の社会課題解決のためのソーシャルビジネスへの関心も高まっている。

こうした時代に、本書が放つメッセージは斬新だ。ここに描かれている焼畑民は、多国籍企業がビジネスを展開する際、決して一方的に搾取される、脆弱な人々ではない。焼畑民は、開発を受入れるか否かという二者択一ではなく、試行錯誤を重ねながら様々な生計手段を組合せて「柔軟性」と「自立性」を確保し、したたかに生計戦略をたてている。

本書の最大の魅力は、開発について二項対立的な考えや、企業、NGO、開発専門家等の外部者が重視する価値基準ではなく、焼畑民の現地の暮らしの論理を軸に独自の分析枠組を構築し、人々に寄り添って徹底的に調べあげた点にある。さらに2000年以降、インドネシア政府が推進した民主化・地方分権化により住民が主体的に意思表示できるようになったことや、インフラ整備がBS村の開発にもたらした変化についても具体的に描いている。

企業による大規模事業が及ぼす影響について、現地の人々の暮らしの視点でみると、外部者が重視する基準とは異なる解釈 (ズレ) がありえる。本書の分析と洞察は、開発のあり方を考える際の重要な指針となろう。その意味で、本書は学術性のみならず実践面でも示唆に富み、国際開発研究大来賞にふさわしい作品である。 (大野 泉)

## 受賞者の言葉

このたびは著書『開発の森を生きる —インドネシア・カリマンタン 焼畑民の民族誌』が国際開発研究大来賞をいただくことになり、大変光栄に存じます。審査員の方々、これまでご指導、サポートしてくださった方々に御礼申し上げます。特に本書のもととなる博士論文をご指導くださった井上真教授 (元東京大学、現早稲田大学) に感謝申し上げます。

私は学部時代と大学院時代に開発学を専攻していたわけではありません。熱帯林の減少や保全に関心を抱く農学分野の学生でした。ただ、熱帯林の現場で何が起きているかを知ることが重要であろうと思い、インドネシア・カリマンタンの焼畑民の村に滞在し、長期間のフィールド調査を行っていました。また、農学分野にとらわれずに、現場の実態に応じて複数のディシプリンをくみわせる地域研究を行っていました。

私が調査を開始した時、カリマンタンでは熱帯林と焼畑社会を根本から改変する大規模なアブラヤシ農園開発と石炭開発が拡大していました。本書は開発に直面した焼畑民が何を考え、どのように生きているのかを明らかにした民族誌です。具体的に、開発の中で焼畑民がよりよい生活を求めて①自然資源利用 (開発への対応含む)、②村の中の慣習的な資源利用制度、③労働形態、④日常の贈与・交換慣行を試行錯誤する様相を明らかにし、それらを焼畑民の生計戦略・生計論理としてまとめました。農学、環境社会学 (コモンズ論)、経済人類学にまたがる地域研究を行ったということになります。

焼畑民の生計戦略・生計論理を明らかにしたのは、開発の問題を人々の暮らしの次元から議論したいという思いがあったからでした。企業のアブラヤシ農園開発と石炭開発をめぐるのは、「熱帯林を減少させ、地球温暖化や生物多様性の消失を引き起こす」「先住民の土地の収用など人権侵害を引き起こしている」「国家や地域に多大な経済効果をもたらす」など、「環境」「人権」「経済」といった外部者の価値基準からその是非が議論されてきました。私はこのような議論から距離を取り、開発の影響を最も受ける焼畑民の視点から開発の意味や問題を捉えなおし、議論を再定位する必要があると考えました。そして、本書で焼畑民にとっての開発の問題は、生活の柔軟性の損失、自律性の損失、人格的で柔軟な社会制度の損失であると主張しました。開発の問題認識にズレがある限り、どれだけ問題解決のための議論を積み重ねても、その開発は現場の人々に苦痛をもたらし続けることとなります。外部者が見落としがちな地域の人々の価値を見つげ出し、議論の中に位置づけていく必要があると考えています。

今日の農村開発や森林保全では、住民参加型の方法や様々な利害関係者との対話や協議が重視されています。その意味で、まず開発・保全の現場を生きる人々が大切にしているモノやコトを知り、それを軸に開発・保全を進めていくべきであろうと考えています。私は今後も地域研究を土台とした実践志向の開発論や森林保全論を展開していきたいと思っています。 寺内 大左



## てらうち だいすけ

筑波大学人文社会系准教授。博士 (農学)。専門は環境社会学、インドネシア地域研究、国際開発農学。2014年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得退学。東京大学大学院総合文化研究科・日本学術振興会特別研究員PD (2013～2016年)、京都大学東南アジア研究所・研究員 (2016～2017年)、東洋大学社会学部・助教 (2017～2021年)。2021年4月より現職。

## 主要著書・論文

「グローバル・コモディティの環境社会学」『環境社会学研究』27号 (2021年)。「東カリマンタンの石炭開発フロンティアにおける焼畑社会の再編」『東南アジア研究』58巻1号 (2020年)。「焼畑民によるアブラヤシ農園開発の受容」『東南アジア研究』55巻2号 (2018年)。

## 第27回 応募作品の傾向と選考経緯

2022年4月から2023年3月までに出版された国際開発分野における課題を主たるテーマとした日本語の研究図書を対象として公募したところ、47作品の推薦・応募があった。

本年度は対象地域としてはアジアを取扱う作品は引き続き多いが、昨年より割合は減少した。そのうち中国関係は3作(昨年同数)であった。アフリカ地域を取り上げたものは6作で、昨年より少なかった。例年にはないロシア2点(金融と経済成長。国境/北方領土等)、ウクライナ(和平調停)、チリ(民族誌)等、各国・地域の研究成果が寄せられた。FASID国際開発研究センターにおいて予備審査を行い、受賞作に加えて下記4作を最終審査対象として選出した。今年に応募推薦作品全体についてはいずれも水準が高く、本審査選出作品は個性的で読み応えがあった。また、テーマとして民主化を扱う作品が多かったことも今年の特徴であった。審査過程における委員による意見はおおよそ以下のとおりである。(書名五十音順)

### 『東南アジアにおける汚職取締の政治学』(外山 文子・小山田 英治編著、晃洋書房)

複数の執筆者による著作であるが、理論編、事例分析編との整合性もあり、優れた著である。汚職撲滅は開発課題としても重要であり、各国の汚職取締機関の実効性を考える視点を提供している。調査しにくいであろう事柄、解決策も見つけにくいテーマを地道に研究されていることは尊敬に値する。

### 『ベトナム民法典の誕生－「民法」の私法化と法の支配の醸成』(深沢 瞳、慶應義塾大学出版会)

ベトナムにおける「法の支配」は、「前進と交代を繰り返しながら、今や不可逆的な形で醸成されつつあり」、その過程につき民法典私法化の変遷を丁寧に考察している。社会主義国における法と権力の関係とその変化が具体的に示された優れた事例研究であり、他の社会主義国とも比較することで、同主義国における法の支配の実態がさらに良く理解できるだろう。

### 『ポピュラー音楽と現代政治－インドネシア 自立と依存の文化実践』(金 悠進、京都大学学術出版会)

インドネシアにおけるポピュラー音楽がいかに政治と関わってきたかを、政治体制の変遷と連動させて明らかにしている。ポピュラー音楽を題材に、文化と政治の関心に注目し、さらに議論を民主主義の在り方にまで広げている点は斬新であり、高く評価される。

### 『民主主義を装う権威主義－世界化する選挙独裁とその論理』(東島 雅昌、千倉書房)

世界的に権威主義が広がる中で、選挙の実施をめぐる独裁者のディレンマと計算を厳密な社会科学的方法で解明した。完成度が高く、時宜を得た著であり、学術的にも開発援助の実践においても極めて価値がある。理論と事例のバランス、鮮やかな分析手法が際立った。

### 【第27回(2023年度)審査委員会】

- 委員長 杉下 恒夫 (FASID理事長)  
 委員 絵所 秀紀 (法政大学名誉教授)  
 大野 泉 (政策研究大学院大学教授)  
 北野 尚宏 (早稲田大学理工学術院国際理工学センター教授)  
 滝澤 三郎 (東洋英和女学院大学名誉教授 ケア・インターナショナル・ジャパン副理事長)  
 藤田 伸子 (FASID専務理事)

## 表彰式・記念講演会

ご案内(Zoomによるオンライン配信)

2024年2月2日(金) 午前10:30～(2時間程)

講演タイトル「焼畑民の生計戦略－開発のあり方、カリマンタンの熱帯林と焼畑社会の今後を考える」  
寺内 大左

インドネシアのカリマンタンでは熱帯林を皆伐する大規模なアブラヤシ農園開発と石炭開発が拡大しています。開発に直面した焼畑民は何を考え、どのように生きているのでしょうか。焼畑民の生計戦略・生計論理を明らかにすることを通して、人々の視点から開発の意味や問題を再定位し、これからの熱帯林と焼畑社会の展望を考察します。

会場 ハイブリッド式 オンラインzoomによる参加者のみ募集します  
(感染症対策等により、オンライン配信のみとなる場合がございます。)

くわしくは [https://www.fasid.or.jp/okita\\_memorial\\_prize/3\\_index\\_detail.php](https://www.fasid.or.jp/okita_memorial_prize/3_index_detail.php)

参加無料・要申込み オンラインフォームからお申込みください

締切 2024年1月25日(木) 定員60名程(定員に達した時点で受付を終了します)

お問合せ FASID国際開発研究センター 大来賞事務局(服部) email: [okita@fasid.or.jp](mailto:okita@fasid.or.jp) / Tel: 03-6809-1997

## 国際開発研究 大来賞

OKITA Memorial Prize for International Development Research

## 受賞候補作品 募集のご案内

「国際開発研究 大来賞」は、国際開発の分野における研究奨励と促進、良書の発掘に資するため、国際開発の様々な課題に関する優れた指針を示す研究図書を顕彰するものです。

第28回(2024年度)についても、みなさまからのご推薦・ご応募をお待ちしております。

## 対象となる作品

- (1) 開発援助を含む国際開発の分野における課題を主たるテーマとする日本語の研究図書(翻訳、随筆、エッセイ、体験記、自伝、紀行文、事業報告書等を除く)であって、国際開発の実践活動の向上に資するもののうち、特に斬新性、普及性の点で顕著な業績、貢献が認められるもの。
- (2) 個人又は団体が編者あるいは著作者の場合は、個人の執筆者名が明記されているもの。
- (3) 2023年4月から2024年3月までの間に、初版が国内で市販されたもの。

## 大来 佐武郎(おおきた さぶろう)氏

1914年旧満州大連市に生まれる。1937年東京帝国大学工学部卒業、逓信省入省。戦後は経済安定本部、経済企画庁においてエコノミストとして活躍。1963年に同庁総合開発局長退官、1964年日本経済研究センター理事長就任、南北問題や開発援助分野で活躍。国際開発計画委員会(ティンバーゲン委員会・ピアソン委員会)の委員や『成長の限界』を刊行したローマクラブのメンバーを務める。1971年国際開発センター理事長、1973年海外経済協力基金総裁などを歴任し、1979年の大平政権において外務大臣を務める(～80年)。その後も国際大学学長、対外経済問題諮問委員会座長、FASID初代評議員会会長、国際開発学会会長等、国際開発分野で数多くの足跡を残す。1993年逝去。

## 審査・表彰

**表彰** 審査委員会で選考された作品に対し、正賞(楯)と副賞(50万円)を贈呈します。

**審査** 当財団国際開発研究センターによる予備審査を経て、審査委員会が行ないます。

## 推薦・応募

推薦者(自薦・他薦可)は、所定の「推薦書」へ入力し、email添付にて送信とともに、当該図書2冊を添えて応募・推薦してください。なお、推薦書類・当該図書は返却しませんのであらかじめご了承ください。

**推薦書** ダウンロードしてください。

[https://www.fasid.or.jp/okita\\_memorial\\_prize/2\\_index\\_detail.php](https://www.fasid.or.jp/okita_memorial_prize/2_index_detail.php)

**締切** 2024年5月末

## 受賞作品の発表と表彰式

2024年11月に推薦書での指定先へ通知、発表し、表彰式を行います。

## 推薦・お問合せ先

一般財団法人 国際開発機構

国際開発研究 大来賞 事務局(服部)

email: okita@fasid.or.jp / TEL: 03-6809-1997

本事業には公益財団法人 三井住友銀行国際協力財団による助成を受けています。

一般財団法人 国際開発機構

国際開発研究センター

国際開発研究 大来賞 事務局(服部)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19 UD神谷ビル10階

(2023年10月末、事務所を移転しました。電話番号は変更ありません。)

email:okita@fasid.or.jp TEL:03-6809-1997 FAX:03-6809-1387 <http://www.fasid.or.jp>